

# 教団新報

定 価 1 部 140 円 (本体 133 円 + 共 7 円) 200 円  
予約購読料 1 年分 共 5,000 円  
紙代のみ 3,500 円  
振替 00140-9-145275  
本紙を購読ご希望の方は、前金を  
そえて、お近くのキリスト教書店  
へお申し込み下さい。  
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団  
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18  
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546  
FAX 03(3207)3918  
E-mail: shimpoh-c@uccj.org  
発行人 竹 前 昇  
編集主筆 竹 澤 知 代 志  
印刷所 株式会社きかんし



赤坂教会

## 道 メッセージ

### ヨシユア記一章一〇節

# 足の裏が踏む所



姫井雅夫

教会は、イエス・キリストの十字架による救いの恵みに与った人々の集まりです。ですから教会では必ずその人々によって神を礼拝します。しかし、それで終わってはなりません。主は「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」(マルコ 16・15)と遺言をされました。ですからその人々は出て行き、福音を宣べ伝える活動を開始したのでした。

よく言われることです。日本のクリスチャン人口は 1% の壁を超えられないでいます。どこにその理由があるのでしょうか。日本は長年にわたる異教的風習、江戸時代から受け継いでいる地域の結束、この世間的価値観など、多くの理由をあげることが出来ると思います。

最初に述べたふたつのこと、礼拝と宣教(伝道)がしっかりと行われていたら、

その壁を破ることが出来たのではないかと、出来るのではないかと思えます。礼拝が、初めて来られる方にも受け入れられるようなプログラムなど焦点を彼らに合

わせていく必要があるでしょう。もうひとつは宣教・伝道です。教会がいつの間にか内向きになっているのを感じます。牧師は役員の色

を伺い、役員は自分達のやりたいことを企画し財を用います。でも教会の外には福音を知らずに滅びに向かっている人々でごったがえしているのです。外に目を

向けないで、伝道をしない教会に来る人は限られ、次第に礼拝もさびしいものになっていきます。教会は「聖なる者たちは奉仕の業に適した者とさ

れ、キリストの体(教会)を造り上げてゆき(エフェソ 4・12)にあるのですから、私たちの教団に属する教会だけでなく、日本中の教会がそのことに励むなら、1% の壁を破って前進していきけるのではないかと

思います。主のみこころは「すべての人々が救われる(二テモテ 2・4)ことですから、聖徒(信徒)を整え、伝道の業に励むこと

で、支援しましょう。でも私たちが行ける所へは行きましょう。足を運びましょう。足の裏で踏んで行きましょう。

キリストに関する文書、チラシ、トラクト、教会案内を配るために、一軒一軒歩きまわろう。犬にほえられながら、「こんなものいらないわよ」と浴びせられる声や耳にしながら、歩くのです。足の裏で踏んで、配るのです。

家庭を訪問しましょう、病院を訪ねましょう、施設に足を運びましょう。そこには私たちが行くのを待っている人々が必ずいるのです。

## 二、人の服従

主はモーセに続いてヨシユアを立てました。そして言われました。あなたはこれの民すべてと共に立つてヨルダン川を渡り、わたしがイスラエルの人々に与えようとしている土地に行きなさい。ここに従うべき三つのことが記されています。

一つは「ヨシユアはヨルダン川を渡るようにと」

言われました。そして渡りました。橋のない川を渡ったのです。大勢の民を率いて渡ったのです。

伝道しようとするとき、幾つもの川、障害、阻めるものが出てきます。それを恐れ、しりぞいてはなりません。

人材がない、財もない、時間もない。ないないづくしです。あなたたちの足の裏が踏む所をすべてあなたたちに与えよ」と言われるのです。マルコ 16 章にあるように「全世界」が対象です。

しかし、実際には世界の隅々まで私たちが足を運ぶことは出来ません。出かけていく宣教師のために祈るのです。

「あなたたちの足の裏が踏む所をすべてあなたたちに与えよ」と言われるのです。マルコ 16 章にあるように「全世界」が対象です。

しかし、実際には世界の隅々まで私たちが足を運ぶことは出来ません。出かけていく宣教師のために祈るのです。

## 三、神の業

主よ、あなたの仰せに従えようお助けください。私たちが立ち上がり、川を渡り、出かけて行き、足の裏で踏んでも、そこに神の業が伴わねば成果を見ることは出来ません。聖霊によらなければ、だれも「

エスは主である」とは言えないのです(二コリント 12・3)と聖書は言っています。

ヨシユア 1 章 3、5、9 節には神ご自身が臨んでおられる姿を見ることが出来ます。神はじっとしてお

ないのです。神は私たちが共に伝道の業、宣教の業にあたってください。

しかも主と共に、主のために、主の業にあたることは光栄なこと。実りの豊かなものです。動かされないようにしっかりと立ち、主の業に常に励みなさい。

主には神ご自身が臨んでおられる姿を見ることが出来ます。神はじっとしてお

ないのです。神は私たちが共に伝道の業、宣教の業にあたってください。



▼我が在所で、は、まもなくゴミ処理が有料化される。不必要なものを駆け込みで処分しようと、ゴミ置き場は毎回山となる。我が家でも教会でも、押し入れ、物置等の点検をし、大胆に処分しようと思んだが、なかなかはかどらない。▼権威筋?に依れば、一年間使わなかった品物は、その後も九割必要で、三年間蔵出ししていないものは、未来永劫要らないそうだ。そんなものかも知れない。▼教会には、二〇〇〇年来使

い続けているものと、一〇〇〇年手を触れることのなかったものが、渾然としている。価値あるものと、無価値なもの、容易に判別出来ない。お宝と「ゴミ」が、同じ部屋の中に積み上げられているのかも知れない。

▼「歴史は本来雑多で無目的な出来事集の集積でしかない。しかし、そこに歴史家の光が当てられる時……」S・ツヴァイクの一節だが、図書館が「ゴミ山」化している今、調べようもない。教会にも雑多で無目的な出来事が積み重なる。しかし、そこに信仰の光が当てられる時に、取るに足らないとしか見えない事が重要な意味を持ち、星の輝きを持つ。



# 噴火・全島避難から5年が

## 再開された三宅島伝道所礼拝

### 福音伝道の灯を消すな

三宅島の雄山が火を噴いて、二〇〇年九月二日に全島民避難の指示が出されてから、四年半ぶりようやくこれが解除となり、今年二月一日帰島が始まった。そして五月一日に島民以外の者も入島出来るようになったのを待って、五月二日、八月二九日、帰島後第一回目、第二回目の三宅島伝道所礼拝を行った。

五月一日(日)夜に竹芝桟橋に向かうロビーは、釣り客等でこった返していた。東京教区東支区三宅島雄山噴火被害救援委員会の木原恵子姉より聖餐式用のパンとぶどう汁を受け取る船に乗り込む。同姉はぜんそく気味なので、いまだ有毒ガスの流れる島に渡ることには、残念ながら許されない。乗船したのは三宅島で食料雑貨を扱うストアを経営していた田中正之兄、田中恵美姉、うこっけいの養鶏をしていた赤羽美江姉、三宅島高校の校長夫人

であった松尾純子姉。委員会側からは米倉美佐男東支区長、倉橋康夫支区書記、国府田佑人師、吉池光会計それに筆者の計九人。軽い船酔いを覚えつつ翌朝五時過ぎ、雨の降る三宅島に降り立った。港には先に帰島していた、民宿を経営する鎌川文子姉、電気ガス水道の工事に当たる井上けい子姉、それに民宿の主人が迎えてくれた。宿について仮眠、朝食をとって、二台の車に分乗して伝道所関係者宅を廻ることにする。携帯を義務づけられたガスマスクを首よりぶらさ



ガスのために枯れ果ててしまった林

②場所をどうするかであるが、当面は民宿等を借りて行くことになる。しかしいずれは拠点となる場所のあることが望ましい。三宅島伝道所」あるいは「三宅島教会」の看板が付けられるような建物の確保である。

は、草むすままになっているが、ここは先に記した通り、家を建てられない地域となっている。また場所としても島中部よりは離れ、最適地とはいえない。いずれにしても、土地を含め物件を得ることは慎重を期さなければならぬが、三宅島伝道を志す以上、拠点はあつてしかるべきであろう。

③伝道は簡単でない事を覚悟しなければならぬ。噴火前は七世帯一〇人余で礼拝を守っていた。噴火後、島に残る人は、当面四世帯四人となった。内、伝道所会員一人、他教会員一人、求道者二人である。誠に噴火は島民全ての人々の生活を根底より揺り動かすものとなったが、これはそのまま伝道所にも反映している。わずかに四人で何が出来るのかと言うことである。島にある寺と神社、そのいずれかの墓地に全島民が属しているということも、伝道の容易でないことを物語る。

それには火山性有毒ガスの噴出である。これがそもその元凶である。これが人を島に寄せつけない。島の人々の生活を今なお苦しめている。真夜中でも発せられるガスの避難警報、枕を高くして寝ていられない。本当にガスさえなければ、海の幸に恵まれ、赤こっかが鳴き、ハイビスカスの咲き匂う楽園なのだ。しかし兎に角、人はここに住まう。この人々に神の愛、キリストの恵みを伝える責任がある。伝道所の灯を消してはならず、これを持続させ、更に明るいものとしなければならぬ。

今後、島に向かう牧師は、説教し聖餐式を行い、メンパールの相談に与ると共に、『こころの友』等を持って家々を巡り歩き、勧誘に努めるといったことを心がけなければならないだろう。ただし、ガスマスクをぶらさけての伝道で、これは日本本士といえどもそうはないであろう。ガスが流れてきたらばマスクを着け、ガスのない所に移動しなければならぬ。三宅島伝道は、住民と同じように決死の覚悟を必要とする。

引き続き全国の兄弟に祈っていただかなければならぬだろう。ガスの噴出が少なくなるように、止むように、伝道所の姉妹達を守られるように、伝道が進展するように。(河合裕志報 三宅島伝道所代務者・東京教区東支区三宅島雄山噴火被害救援委員会委員長・西新井教会牧師)



三宅島の阿古港に到着

赤羽姉宅、民宿経営の佐々木美代子姉宅、鎌川姉宅、井上姉宅と巡る。このうち赤羽姉は、ガスのため居住禁止地域に指定されている関係で、別の所に立てられてた村営住宅に入居する。鶏舎にはうこっけいの姿はなく、脇に置かれた車はガスのためボロボロになっている。背後の山は、枯れ果てた木が林立している。

午後三時礼拝を始める。伝道所の建物は一九八三年の噴火の際に焼け落ち、その後、第二回目が八月二九日(月)にあつたが、これを簡単に報告したい。内地からの出席は委員の倉橋師、国府田師、信徒の川上郁夫兄そして筆者の四人。三宅島の人は、鎌川姉、佐々木姉、井上姉、赤羽姉



帰島後 2 回目の礼拝、説教者・河合裕志牧師

いずれは毎週持たれることが望ましい。実はローテーション方式の前には、八丈島の教会より牧師が毎週出向き礼拝を守っていた。その間に、伝道所開始以来初の受洗者が与えられた。いずれの日か御心の日に、最寄りの島の牧師が毎週通つてくれるようになることを願っている。



左から米倉、河合、赤羽、倉橋、吉池(敬称略)

④この十月より月一回の出来るのか、「救援委員会」はこう考えているかを、以下に記したい。

以上、帰島後持たれた二回の礼拝の様子を伝えたが、今後三宅島伝道についてどんな展望を持つことが出来るのか、「救援委員会」はこう考えているかを、以下に記したい。

④この十月より月一回の出来るのか、「救援委員会」はこう考えているかを、以下に記したい。



## 一日も早く募金目標達成を

### 「新潟県中越地震」被災教会会堂等再建支援委員会

九月一日(木)、第五回「新潟県中越地震」被災教会会堂等再建支援委員会が開かれた。

(1)事務局報告

第34総会期第二回常議員会において、『新潟県中越地震』被災教会・被災地を覚える主日制定に関する件」が原案通り可決された。

(2)関東教区報告

「新潟県中越地震」を覚える主日制定に基づき、記念礼拝を実施する。

(3)協議

関東教区報告の被災状況一覧をもとに、当委員会募金の支出について協議した。①既に教区で立て替えて着工済みを含め二教会の補修について支出すること、承認(合計二、九八六、四九〇円)②被災信徒宅見舞いについて、関東教区報告が委員長よりなされた。委員会としてはこれを受理し、実務委員会としての性格上、委員の補充を早急に三役に要請することを可決した。

町教会の説教者として小橋孝一委員長を派遣する。関東教区から毎回詳細な報告を受けている。今回も一七頁にわたる資料をもとに検討を重ねることが出来た。被災教会は震災後、一年ぶりの豪雪に加え、六月には大雨にも見舞われ、

雨漏りが始まるなど震災を原因とする新たな被害が明らかになってきている。また、現在の場所が借地で建て替えが難しいため移転新築を考える教会、地盤崩壊の可能性が大きいため現在地での再建でなく移転を視野に再建計画を練っている

が急がれる。二年間で一億五千万円の募金を目標に始められ、現在その二三%が献げられている。必要な時にすぐ応えることが出来るよう一日も早い目標達成に向け力を尽くしたい。

(朝岡瑞子報)

た。前委員会から引継いでいる試験会場を一会場で行うことについて今回も協議した。委員会として



110名もの受験者数に感謝

## 試験一会場化を準備

### 第二回教師検定委員会



切羽詰まった現状に委員も必死

第34総会期第二回教師検定委員会が八月二二、二三日、教団小会議室で委員六名の出席で行われた。最初に病気で欠席した委員について、本人よりの辞意が表されていることの報告が委員長よりなされた。また、受験コースの決定と科目認定を、申請された五名に対して行った。

教師検定試験の準備を行なった。補教師受験志願者三八名と正教師受験志願者七名の受験資格が確認された。その際、二名の教師検定規則第十条の適用の申請に対してこれを承認した。

全体会と面接の持ち方を協議し、決定した。一名の受験者からのパソコン使用及び時間延長の申請に対しては、協議し、これを承認した。受験費用援助の申請が二

五名の受験者から出されており、これを検討し、決定した。兵庫教区より出されているいくつかの質問について協議し、回答を作成した。また、以前他教派にて按手を受け今回補教師試験を受験する予定の志願者についての質問について協議し、委員会としての回答を作成した。

補教師で宣教師として海外で働いている教師の正教師試験受験について、どのように取り扱うことがよいのかを信仰職制委員会に諮問することが可決された。一名の他教派からの正教師転入については、課題論文の他に他教規の学科試験を課することが可決された。

○三年八月には、ドイツ側からの招待を受け、日本から二〇名を同教区へ派遣している。

このような交流が行われることになったきっかけは、一九九八年、この年の六月に開催されたベルリン・フランクフルク領邦福音主義教会婦人部大会および協議会へ婦人会連合を代表して杉森耀子さんが出席した折りに、協議会プログラムの中で彼女がウィッツシュトック・ルビン教区と交流を持ったことに始まる。その後、二〇〇六年六月に訪独した折りに、再び有志で同教区を訪問。婦人たちが教会の方々と交流を深める中、日独の婦人たちの中に「青年たちの交流をいつか実現したい」との願いが生まれた。その願いを実現させたのが、二〇〇二

年日独教会青年交流」である。この夏に行われた交流は、小田原十字町教会での開会礼拝に始まり、前半は神奈川教区・東海教区の二手に分かれてのホームステイ及び各教区内での青年交流が持たれた。七月二五日〜二七日は御殿場東山荘を会場に「日独教会青年合同リトリート」が行われた。主題は「Mission Networking: A Branch to the World Church of Tomorrow」。

その後、青年たちは西東京・東京・関東の各教区内でホームステイし、近隣教会の諸集会に出席するなどした。二九日には、教団会議室にて「歓送会」を行った。今回の交流は、初めて日独教会青年交流プログラム協力師

### 東中国 教団の宝

藤原寛人

東中国教区は四八教会・伝道所からなる。教会数からいうと小規模教区である。それはつまり、一教会の存在が際立っているということだ。例えば、他教区と同じ宣教の働きを担っていくにしても、比較して一教会、一教師、一信徒の担うべき分が大きい。一教会の行事参加、不参加がどれだけ大きな影響を持つことか。また、一教師が地区、教区の多くの役割を同時に担わなければならないことも

### 教区 コラム

しばしば。結果、体調を崩してしまわれる教師も少なくない。このような現状では、一教会、一教師、一信徒の信頼関係、協力関係が非常に大きな意味をもつ。財的協力はもちろん、人的協力も不可欠となる。その為、東中国教区は何よりも「顔の見える関係作り」を、他教団から転じた私は、違いを入れて、教区交換講壇の実施、教会強化資金の活用、常置委員による問安、そして毎年各教会から「一年を振り返って」と題する文

(東中国教区総会副議長)

## 若人に福音を、広い世界を

### 日独教会青年交流プログラム



日独教会青年合同リトリート

七月二〇日〜三〇日、ドイツより一八、二四歳の青年五名を含む計七名のグループを迎え、全国教会婦人

会連合(以下、婦人会連合と記す)主催による「ユースミッション二〇〇五」日独教会青年交流が持たれた。

彼らは、ベルリン・フランクフルク領邦福音主義教会の旧東ドイツ側にある、ウィッツシュトック・ルビン教区より派遣された。日本基督教団内に同教区から青年を迎えるのは、今回が二回目になる。

初めてドイツから青年たちが来日したのは、三年前の夏。この時は、婦人会連合の有志による実行委員会が作られ、ドイツから二〇名の青年たちを迎えて日独教会青年交流が持たれた。

「若い人たちに福音を伝えたい、広い世界を見て欲しい」という婦人たちの願いが、この青年たちの交流を実現させた。

「青年伝道に取り組み」ことを総会で決議した教団は、これから具体的にどのように青年たちに関わり、福音を伝えて行くのだろうか。そのことが問われているように思う。

(西之園路子報「ユースミッション二〇〇五」日独教会青年交流プログラム協力師)

### 消息

関 慶子氏 (大津東教会牧師)



師) 八月一三日、逝去。六八歳。東京都に生まれる。一九六六年東京聖書学校卒業後、小松川教会に赴任。その後茅野教会を経て、七一年から大津東教会牧師を務めた。遺族は夫の雅人さん。

また、これまでの交流は婦人会連合の有志による献金で支えられて来たが、今回は教団世界宣教協力委員会、学生キリスト教友愛会、そして今回の交流のために準備段階から関わって来られたクリスチャン・セブリアン教師の母教会、スワスモア長老教会の婦人たちからも献金が寄せられた。

「若い人たちに福音を伝えたい、広い世界を見て欲しい」という婦人たちの願いが、この青年たちの交流を実現させた。

「若い人たちに福音を伝えたい、広い世界を見て欲しい」という婦人たちの願いが、この青年たちの交流を実現させた。

「若い人たちに福音を伝えたい、広い世界を見て欲しい」という婦人たちの願いが、この青年たちの交流を実現させた。

「若い人たちに福音を伝えたい、広い世界を見て欲しい」という婦人たちの願いが、この青年たちの交流を実現させた。



# 牧師のパートナー

牧師を父に持つ夫が赴任して二年目の教会で結婚しました。やがて子育ても加わり、私の予想していたよりはるかに上回る力が必要とされる生活でした。喜びも楽しさもありましたが、「助け人」と記入された結婚のための教会転籍表の言葉の重みもさることながら、一番困難に思ったのは、子育てです。教会の多くの事に受身で接することを要求される中で、自分だけではなく家族にまで影響を受けないようにすることとは、とても大事な事です。さらに転任ともなれば、単に転校に留まらず、生活の中まで揺さぶられます。

先日、近くに住む小一の孫娘が会食懇談会で共に食事をした後、私の耳もとで「みんなのところで食べるのはいや、わたしのことばっかり言っもん」。娘に話すと「私の幼い時と同じ事感じてる」。

さまざまな困難の中で、いよいよ出口が見えない闇の中に置かれ、相談できる誰の助言にも解決の糸口はつかめず、打ちひしがれた

ていた時に、静かに迫ってきたのが、それまでに学んでいた聖書の言葉でした。中でもヨブ記は、さし込む光となり、道となり慰めとなって私の前に現れてきました。神様は私の望むような生活では近づいてくたさらない事、そしてみ言葉の深い味わいを知らされました。少しずつ自分が変わえられていったと思います。

一つ一つの出来事の後、教会へキリストの救いを求めて足を運ばれる方々の事が、あるいは教会の外で出会う人々の戦いがよく理解できるようにになりました。

子供達は成人し、それぞれの人生を、たくましく生きています。

## 牧師館に住んで35年

田中 道世  
(土師教会員)



土師教会の前にて

私もまた強く(いいえ太くなり)、自分を大切にしながら、ユーマアで応じるゆとりまで得ました。

貸農園では色々な野菜も育ってくれ、会食には一品登場。庭で咲いた花を食堂やコーナーに活け、「説教に癒され、お花にいやされます」と、時折声をかけられます。

二つの任地とも、前任牧師の妻であった方々と共に過ごし、その間に牧師夫

人であった夫の母と一〇年同居の後見送り、今は加えて他教会を隠退された牧師夫妻も出席しておられます。どなたもそれぞれの個性を持つ「牧師のパートナー」であったことが、今の私には心強いことです。

現在、私は大阪教区婦人会連合の委員会に「牧師夫人の会」より協力委員の一人として参加しています。信徒を中心とした計二名の委員は、二年一期の任期を熱心に奉仕し、婦人会への伝道に力を注いでいます。その活動を通して、任期を終える頃には、初めに期待もしていなかった程の友情と信頼が生まれ、中高年にして信仰の新しい輪が生まれ、その後も期ごとの同窓会が続いています。

しかし「牧師夫人と呼ばれたくない」「牧師夫人として結婚したのではない」「大変な仕事は受けたくない」などの理由により、協力委員を交代する方がなく、私は今年も四期七年目を続行中です。

自分の仕事や病を持ちながらも奉仕される信徒委員の方々を尻目に、交代もないままに任期だからと言って退きがたく、苦慮しているところでした。

### まど 篤いお祈りと温かいご支援を

中越地震・再建支援委員会

まもなく「新潟県中越地震」から丸一年が経とうとしています。二〇〇五年一〇月の第四聖日は、あの日と同じ二三日。過日開催の第34総会期第二回常議員会において「新潟県中越地震」被災教会・被災地を覚える主日」が制定されました。各教会で被災教会の皆様へ思いを寄せつつ礼拝が捧げられることと思います。当日は十日町教会において、地震の起きた時刻に合わせ記念礼拝が持たれることになっています。

七月二〇日発行の「支援ニュース」No.2で被災地からの声をお聞きすることができました。大きな課題を前に、自らも被災したなかで祈りを合わせ歩む信徒の方々、またこの苦難の時代が地域への証の時に変えられたことの感謝等々が伝わってきました。それぞれの事情から、二教会は新しく土地を求め、建築することを考えています。その幻を実現させるため、なお一層のご支援をお願い致します。

八月末現在目標額四分の一弱の献金が献けられていますが、工事等必要時に即応えることができるよう、目標額が少しでも早く達成できますように、お祈りと

### お知らせ

★東京教区原理解問題相談会  
／時11月18日(金) 13時  
～15時／所1日本キリスト教会館4階会議室／問合せ  
11東京教区事務所 03-3203-14270

### 出版局ニュース

http://www.bpu.or.jp

★新刊から  
暴力に対しては非暴力憎悪に対しては愛  
『キング牧師フォトドキュメント 私には夢がある』C・ジョンソン／B・エイデルマン編 山下慶親1訳 一九六〇～七〇年代アメリカで、非暴力の抵抗によって人種差別政策と闘い、ノーベル平和賞を受賞し一発の凶弾に倒れたキング牧師の生涯を、全米図書賞受賞作家の文章と、その闘いを世界中に発信し続けた報道写真で描出。ニューヨーク・タイムス紙絶賛。写真三六五点収録。

＜推薦のことば＞  
緒方貞子(元国連難民高等弁務官) この本は日本と日本人に歩むべき道を示す。姜尚中(東京大学教授) いまこそ、キング牧師の魂の叫びを思い起こそう。B4変形・二八八頁・八、九二五円



平本紀久雄さん

## 海岸侵食に警鐘を鳴らす魚博士



1940年東京生まれ。水産学博士。「千葉の海と漁業を考える会」代表。南房伝道所会員。

千葉県水産試験場に四〇年近く勤め、魚博士、イワシ博士の異名をもつ平本さんは、海岸侵食で砂浜が激減し、美しい海浜の景観が失われつつあることに危機感を抱いている。

「九十九里浜は全国の海岸侵食の典型例。コンクリート化で、砂の出どころを塞いだから、砂浜が急激に減って来た。砂の消失は年間二〇万トンに達する。消滅する海水浴場もある。このまま放置すれば、六〇キロに及ぶ九十九里浜の砂浜は数十年でなくなるだろう」という。

平本さんの住む館山市は鏡ヶ浦の名のある館山湾に接しており、全国一のウミホテルの棲息地として知られている。その中央部に巨大桟橋、コンクリート

浦の名のある館山湾に接しており、全国一のウミホテルの棲息地として知られている。その中央部に巨大桟橋、コンクリート

浦の名のある館山湾に接しており、全国一のウミホテルの棲息地として知られている。その中央部に巨大桟橋、コンクリート

浦の名のある館山湾に接しており、全国一のウミホテルの棲息地として知られている。その中央部に巨大桟橋、コンクリート

浦の名のある館山湾に接しており、全国一のウミホテルの棲息地として知られている。その中央部に巨大桟橋、コンクリート

浦の名のある館山湾に接しており、全国一のウミホテルの棲息地として知られている。その中央部に巨大桟橋、コンクリート

### 休暇の中で

九月中旬、遅い夏期休暇を戴き、N教区・A教会の礼拝と修養会を担当させて戴いた。

A教会は、戦後の農村教会で、普段は一〇人余の礼拝出席。しかしこの日は、会員の祈りを主が祝し、倍以上の出席。

午後の修養会には、近隣教会からの出席もあり、終了後は明るくその教会を辞した。

翌日は、あるキリシタン殉教遺跡を訪ねたが、その遺跡近くの狭い道に面してB教会があった。少人数で迎えたが、無牧となった私の母教会であるO教区・C教会を訪ねたが、教会案内板の前牧師の名前は

トに「祝福を祈ります」と書いた名刺を入れさせて戴いた。帰宅後、教団年鑑を見ると、無牧で、統計除外の教会でもあった。しかし、日曜午後には礼拝が守られ、倍以上の出席。

このように、休暇中だからこそ、普段は接することのできない三つの教会の、ある一面を知ることができたが、これらの教会は、数字上は教団の平均の半分くらいしか、それ以下の教会と思われる。

この現状を知り、常議員会等で協議される内容が、これらの教会とどう直結しているのかを深く考えさせられた休暇であった。

(教団総会副議長 小林 眞)

堤防と人口浜のビーチ利用促進モデル事業が始まって景観は一変した。

バブル崩壊とともに工事は三分の二ほどで中断しているが、平本さんは「潮流や沿岸流の流れを変えないために、堤防で囲ってはいけない。自然の仕組みを変えないために突堤や離岸堤などの障害物を置かない」ことが大切と、工事そのものに反対して来た。

コンクリート突堤と人工浜、防砂林を伐採しての道路建設は、全国至るところで見られる現象である。バブル期の公共事業によって促進されたことはいうまでもない。「自然の砂浜を残す」という。その中で、「サーファーの関心が高い。守る会の大きな力になっている」と若者に期待している。

講演や執筆を通して「海の自然環境を守ろう」と訴え続ける平本さんは、「海の国なのに、海に背を向けて生活している。山林の保護に比べ、海への関心が低い」ことが歯がゆくてならない。漁民の関心が今一つだそうだが、「一つには専業漁民が減り、半ば観光業の漁民も増えて来たから、人口浜に期待したりする」という。その中で、「サーファーの関心が高い。守る会の大きな力になっている」と若者に期待している。